

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果及び改善策

佐伯市立東雲中学校

4月19日に、中学校3年生を対象に、全国学力・学習状況調査が行われました。その目的・取り扱いについての配慮事項については、以下のとおりとなっています。

1 全国学力・学習状況調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 全国学力・学習状況調査結果の取扱いに関する配慮事項

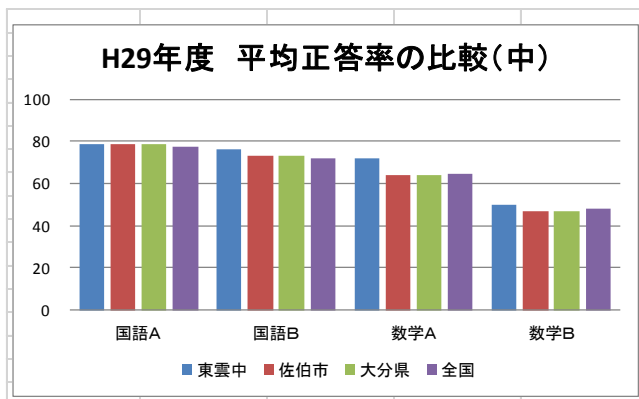
調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげるのが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

《お願い》

本調査結果の公表は、上記の目的を達成するためのものであり、学校間の序列化や過度の競争が生じないように、閲覧に当たっては、下記の事項のご配慮をお願いします。

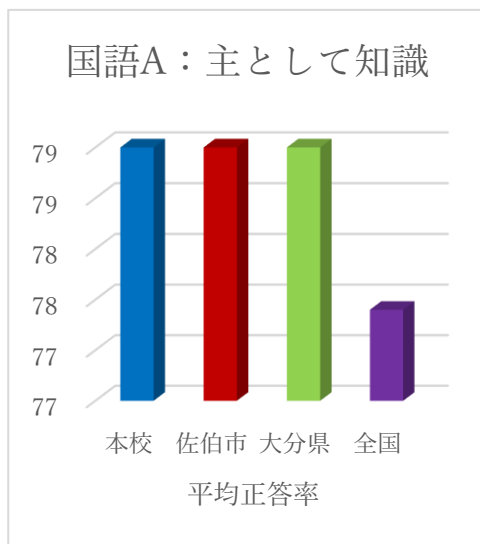
- 本校の平均正答率をほかの文書等に転載しないこと。
- 他校の平均正答率と並べたり、比較したりしないこと。
- 複数の学校の平均正答率を並べ、ランキング付けしないこと。

1 調査結果（本校生徒と市・県・国との比較）



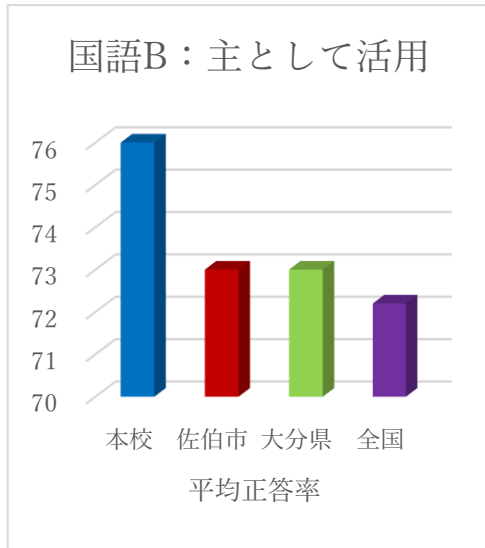
	国語A	国語B	数学A	数学B
東雲中	79	76	72	50
佐伯市	79	73	64	47
大分県	79	73	64	47
全国	77.4	72.2	64.6	48.1
市比	0.0	3.0	8.0	3.0
県比	0.0	3.0	8.0	3.0
全国比	1.6	3.8	7.4	1.9

2 調査結果（国語 A：主として知識について）



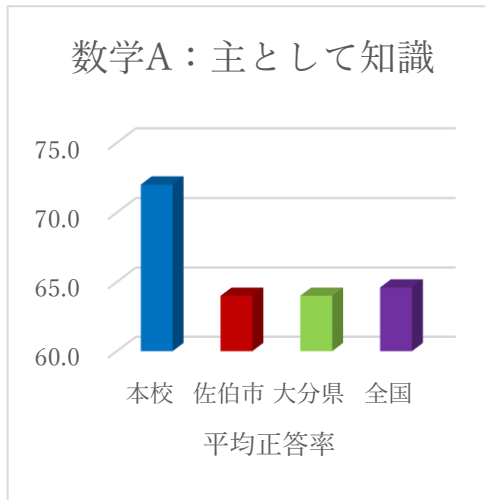
国語A：主として知識								
項目	本校	佐伯市	市との差	大分県	県との差	全国	全国との差	
平均正答率	79.0	79.0	0.0	79.0	0.0	77.4	1.6	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	75.0	74.9	0.1	75.9	-0.9	75.4	-0.4
	書くこと	88.1	87.5	0.6	86.6	1.5	85.7	2.4
	読むこと	77.8	75.4	2.4	74.6	3.2	73.8	4.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.0	78.9	-0.9	79.8	-1.8	77.2	0.8
評価の観点	国語への関心・意欲・態度							
	話す・聞く能力	75.0	74.9	0.1	75.9	-0.9	75.4	-0.4
	書く能力	88.1	87.5	0.6	86.6	1.5	85.7	2.4
	読む能力	77.8	75.4	2.4	74.6	3.2	73.8	4.0
問題形式	言語についての知識・理解・技能	78.0	78.9	-0.9	79.8	-1.8	77.2	0.8
	選択式	81.0	79.6	1.4	79.9	1.1	78.5	2.5
	短答式	74.3	77.0	-2.7	77.7	-3.4	75.1	-0.8
記述式								

3 調査結果（国語 B：主として活用について）



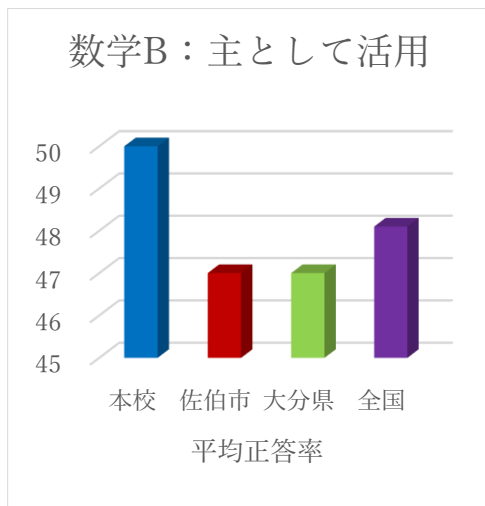
国語B：主として活用								
項目	本校	佐伯市	市との差	大分県	県との差	全国	全国との差	
平均正答率								
76.0 73.0 3.0 73.0 3.0 72.2 3.8								
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	71.4	73.6	-2.2	72.3	-0.9	72.4	-1.0
	書くこと	60.7	60.9	-0.2	60.8	-0.1	60.8	-0.1
	読むこと	76.2	73.9	2.3	73.1	3.1	72.1	4.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	33.3	42.8	-9.5	42.1	-8.8	41.4	-8.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	54.0	56.9	-2.9	56.1	-2.1	55.9	-1.9
	話す・聞く能力	71.4	73.6	-2.2	72.3	-0.9	72.4	-1.0
	書く能力	60.7	60.9	-0.2	60.8	-0.1	60.8	-0.1
	読む能力	76.2	73.9	2.3	73.1	3.1	72.1	4.1
	言語についての知識・理解・技能	33.3	42.8	-9.5	42.1	-8.8	41.4	-8.1
問題形式	選択式	84.8	80.3	4.5	79.9	4.9	79.6	5.2
	短答式	95.2	87.8	7.4	85.6	9.6	84.1	11.1
	記述式	54.0	56.9	-2.9	56.1	-2.1	55.9	-1.9

4 調査結果（数学 A：主として知識について）



数学A：主として知識								
項目	本校	佐伯市	市との差	大分県	県との差	全国	全国との差	
平均正答率								
72.0 64.0 8.0 64.0 8.0 64.6 7.4								
学習指導要領の領域	数と式	75.4	70.2	5.2	71.3	4.1	70.4	5.0
	図形	70.2	63.6	6.6	64.1	6.1	66.0	4.2
	関数	69.6	57.5	12.1	57.5	12.1	57.4	12.2
	資料の活用	72.6	61.2	11.4	57.0	15.6	57.6	15.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度							
	数学的な見方や考え方							
	数学的な技能	76.4	67.8	8.6	68.0	8.4	68.2	8.2
	数量や図形などについての知識・理解	66.7	59.6	7.1	59.5	7.2	60.2	6.5
問題形式	選択式	67.8	65.7	2.1	66.0	1.8	66.8	1.0
	短答式	74.5	63.3	11.2	63.2	11.3	63.4	11.1
	記述式							

5 調査結果（数学 B：主として活用について）



数学B：主として活用								
項目	本校	佐伯市	市との差	大分県	県との差	全国	全国との差	
平均正答率								
50.0 47.0 3.0 47.0 3.0 48.1 1.9								
学習指導要領の領域	数と式	50.8	45.9	4.9	46.0	4.8	46.3	4.5
	図形	39.7	43.7	-4.0	45.0	-5.3	47.1	-7.4
	関数	57.1	51.0	6.1	48.3	8.8	50.8	6.3
	資料の活用	61.9	51.6	10.3	48.9	13.0	49.1	12.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度							
	数学的な見方や考え方	38.6	35.2	3.4	35.6	3.0	36.8	1.8
	数学的な技能	60.3	59.4	0.9	57.6	2.7	61.2	-0.9
	数量や図形などについての知識・理解	90.5	89.1	1.4	85.9	4.6	85.1	5.4
問題形式	選択式	50.0	54.1	-4.1	54.1	-4.1	53.8	-3.8
	短答式	68.3	66.4	1.9	64.6	3.7	66.3	2.0
	記述式	27.6	18.6	9.0	19.3	8.3	21.7	5.9

6 分析結果

今回のテストの分析を2つの視点から行った。

- (1) 「評価の観点」、「問題形式」さらに無回答率などの観点から
- (2) 生徒の質問紙から

(1) 国語、数学について、「評価の観点」・「問題形式」さらに「各設問」の正答率・無回答率・主な誤答などの観点から

国語： 国語A（知識）、国語B（活用）問題とも、県や全国の平均と同等または上回っている。特に、国語B（活用）問題は国語A（知識）問題の正答率より県や全国に比べて高い数値である。評価の観点（国語A：知識）、評価の観点（国語B：活用）でも、「読むこと」が本校の生徒はよくできている。問題形式（国語B：活用）では、「短答式」は高い値を示しているが、記述式はやや苦手としている。

数学： 数学A（知識）、数学B（活用）問題とも、県や全国の平均を上回っている。本校の生徒は、評価の観点（数学A：知識）でどの領域も高い正答率である。特に、「数学的な技能」が高い数値である。評価の観点（数学B：活用）では県や全国に比べて同等あるいは高い正答率である。問題形式（数学A：知識）では、特に「短答式」が高い数値を示している。問題形式（数学B：活用）では、「選択式」で県や全国に比べて若干下回っているものの、「記述式」では高い数値を示している。

（総合的に）

現3年生については、2年生の時の県の学力定着状況調査では、数学では市や県の正答率を上回っていたものの、国語は下回っていた。特に「書くこと」については、県平均から10ポイント以上も下回っていた。しかし、今回の調査では、補充していかなければならない観点はあるが、全体の平均正答率で市、県および全国を上回ることができた。

これも常日頃から、朝学習や家庭学習のプリントの徹底した取り組みの成果が現れたものと考えられる。また、授業と関連した家庭学習プリントに取り組みさせることで、その日の復習に非常に効果があり、力をつけることができたと考えられる。

(2) 生徒質問紙から「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。」では、全員の生徒が肯定的な回答をしている。板書とノートの一体化も進んでおり、95%の生徒が肯定的な評価をしている。このことは昨年度から継続した取り組みとして、「新大分スタンダード」を意識した授業づくりができていたことが表れている。

質問紙「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」は、「そう思わない」と答えた生徒が昨年度と同様に県や全国より高く、書くことに対する抵抗感が少ないことがわかる。

また、「国語と数学の今回の問題で、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」は、全員が肯定的な回答をしており、本校の生徒の粘り強く、最後まで努力する性格が表れている。

7 分析結果を踏まえた改善策

- 教科担任は、「新大分スタンダード」を意識して授業に取り組み、生徒指導3機能を生かした取り組みも行う。（継続）
- 単元をひとまとめで、探求的な課題を設定して授業展開の工夫を図る。
- 単元ごとの授業評価アンケートを実施し、授業改善に生かす。
- 小単元ごとのチェックリストを作成し、生徒の理解状況やつまづきを全教職員で共有し、指導に役立てる。
- 条件のついた作文の記述ができるように、授業の振り返りで確認（発表、話し合い、教え合いなど）をさせたり、定期テストに組み込んだりする。
- PTAとの協働目標として、生徒の自己肯定感を高めることを設定しており、家庭での取り組みをサポートするために情報発信を中心に啓発活動を行う。